

浜田広介記念館 特別企画

世界にはばたくアタナス・ウルクズノフがおくる

朗読とギターによる「泣いた赤おに」

—浜田広介作品とギターの夕べ—

日時: 2010年8月29日(日)

17:30 開場 / 18:00 開演

会場: 浜田広介記念館 ひろすけホール

入場料: 一般 前売1,000円(当日1,200円)



アタナス・ウルクズノフ & 小倉美英



中島晴美

(企画・プロデュース)

**世界
初演**

「The Red Elf's Tale」

朗読とギターによる「泣いた赤おに」

アタナス・ウルクズノフ作曲

出演

- ♪アタナス・ウルクズノフ(作曲家・ギタリスト) ♪小倉美英(フルーティスト)
- ♪中島晴美(ギタリスト)
- ♪東京ギターアンサンブルMグループ 高橋望、ダン・コスレイ 他
- ♪濱田滋郎(ギタリスト・音楽評論家・浜田広介次男)
- ♪高島おはなしキャラバンりぼん ♪高島町少年少女合唱団エーデルワイス

◆主催: 財団法人 浜田広介記念館 ◆

◆後援: 高島町・高島町教育委員会・ひろすけ会・(社)日本ギター連盟・日本ギター合奏連盟・現代ギター社(株) ◆

チケットの取扱い・お問い合わせ... 浜田広介記念館 TEL0238-52-3838

Program



**世界
初演**

「The Red Elf's Tale」

朗読とギターによる「泣いた赤おに」

アタナス・ウルクズノフ作曲

朗読とギターによる「泣いた赤おに」世界初演について

この誰でも知っている赤おに・青おにの物語をより広くいつまでも人々に伝えたい、そのためにギタリストである自分に何かできないか、そんな中島晴美氏の思いがこの朗読とギターのための作品を誕生させ、演奏会開催に至らせた。加えて、浜田広介の子息、評論家・濱田滋郎氏、ギタリスト・濱田三彦氏が、ともにギター界にとって多大な貢献を続けている重要な人物であること、04年にアタナス・ウルクズノフが中島晴美と東京ギターアンサンブルMグループのために作品を書いていることが、「泣いた赤おに」とギターをさらに強く結びつけることとなった。楽曲には、ブルガリアの民話と置賜地方の民謡(子守歌)が使われており、日本的な素材をまったく新しい音楽へと創造した作曲家ウルクズノフの稀有な才能を聴きとることができる。このたび、庄内国際ギターフェスティバルに招聘され来日中のウルクズノフ自身も出演し、演奏に花を添えることとなった。

<アタナス・ウルクズノフ&小倉美英>

1970年ブルガリア出身のギタリスト・作曲家。パリ音楽院でギターと作曲を学び、次々と作品が出版され受賞多数。01年以来、度々日本にも来演、ギター独奏と夫人のフルーティスト小倉美英とのデュオで世界各地で熱狂的なファンを掴む。ブルガリアの民族音楽と現代的な感性が溶け合い、急速な舞曲風の変拍子のリズムが生み出す軽妙さと、ゆったりした曲でのデリケートで静かな響きが特色。「日本民謡を扱ったギター一曲にかつて無かった種類の、高度に芸術的なオリジナリティが真に注目に値する」「デュオとしても、また両者それぞれとしても、計り知れぬほどの将来を感じさせる音楽家たちである」とはレコード芸術誌での濱田滋郎氏評。現在、パリ市立モーリス・ラヴェル音楽院ギター科教授。

<中島晴美>

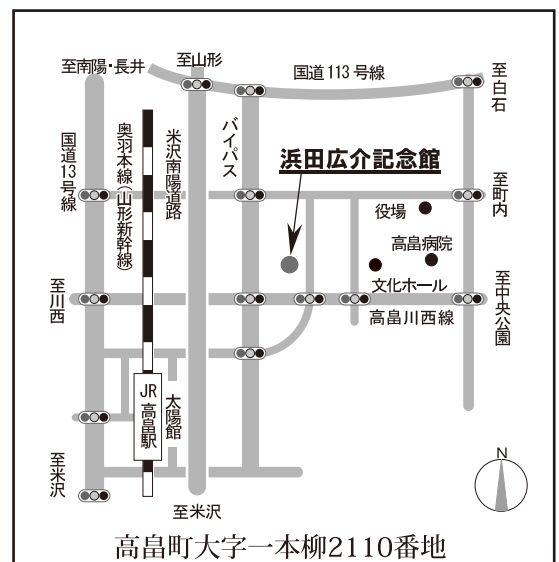
ギタリスト。ウエストチェスター音楽院で学びニューヨーク各地でコンサートを行なう。日本ギター重奏コンクール第2位。東京ギターアンサンブル主宰・指揮、大阪府知事賞受賞。日本ギターコンクール審査員等を歴任、「HARUMI賞」設定者。(社)日本ギター連盟正会員、同合奏連盟常任理事。読売日本TV文化センター講師。



お話「父 広介と音楽」

<濱田滋郎>

1935年、浜田広介の次男として生まれる。クラシック音楽全般の研究・評論活動に携わり、スペイン・中南米音楽については我が国の第一人者として深い造詣を有する。ギター音楽にはとくに愛情を注ぎ、ギターの歴史、演奏、作品などに向けられる細やかな的確にして、父ひろすけ譲りの慈愛溢れる筆致は、すべてのギタリストおよびギター愛好家が信頼と尊敬を寄せるところとなっている。レコード芸術誌「新譜月評」器楽曲、現代ギター誌「濱田対談」などを長く担当。著作、翻訳多数。1984年「蘆原英了賞」受賞。実弟・三彦氏もギタリスト。



フルート&ギターのゲスト演奏



「ひろすけ童謡」(うた&ギター)

お知らせ

企画展開催中

「浜田三彦切り絵展」

～和紙とカッターが織りなす「刀画(とうが)」の世界～

～8月29日(日)まで